

那覇市総合計画審議会（第2回 産業・観光・情報専門部会）

日時： 平成29年8月9日（木） 15:00～17:00 場所：那覇市役所 401会議室

【出席者】審議員： 下地芳郎部会長、西里喜明委員、石坂彰啓委員、西澤裕介委員、仲村兼作委員、久高豊委員、根路銘勇委員、宮地順子委員（8名）

事務局： 企画調整課 稲福副参事・玉那覇主査・富川、各課担当副部長及び参事

【次第】

議題 第5次那覇市総合計画 基本計画（原案）について

【配布資料】

参考資料： 那覇市総合計画審議会 第1回保産業・観光・情報専門部会の概要

議題 第5次那覇市総合計画 基本計画（原案）について

事務： （開会の挨拶を行う。審議に先立ち、配布資料の確認を行う。）

本専門部会8名中、本日の出席は7名で、過半数に達しているため、本審議会規則第6条第2項の規定により会の開催が可能となったことを確認する。また、西里委員に関しては少し遅れての参加になる旨連絡を受けているので、8名の委員全員が揃う予定である。

また、審議会については、全体会議にて原則的に公開するものとして確認した。本日の審議についても、委員又は事務局から非公開の申し出がないことを確認し、公開として進めることとする。

それでは、これよりの議事の進行を下地部会長にお願いする。

部会長： 皆さんこんにちは。第2回産業・観光・情報専門部会を開催したいと思う。資料として、前回の議事概要が配られている。前回の審議内容が要約されているので、追加修正等がないかご確認いただきたい。

（確認の時間を取って）よろしいでしょうか？ 異議がなければ、施策39、40について。

まず39についてご意見願いたい。取組の柱と方針、併せて、施策指標についても、適切かどうか。ご意見をお願いします。

仲村委員： 指標①の通行量について。97,925人という数字は、具体的にどこの数値なのか？ 中心商店街というのは、イメージ的には国際通り。それ以外のところが？

事務： 国際通りをはじめとして19か所の合計である。休日と平日に測定し、平均を出した。

仲村委員： 1日の延べ人数ということですね。それなら納得する。

中心商店街に人を呼ぶには、相当なコストがかかる。国際通り辺りは、具体的に言うと言行きたくてもアクセスが容易ではないとか、そういうことがある。駐車場の問題がある。今、観光バスが県庁前に止まって、警察に怒られると周遊しているような状態。他の地方都市を見ると、バスのロータリー、パークアンドライド、ペDESTリアンデッキ等を取り入れて、利用しやすいように考えられている。今、農連市場を建替えているが、建物を近代化しても、（交通の）ハード面が解決されないと。農連市場については、昔の農連がいいという声もある。

部会長： 事務局、今のご発言について何か返答あるか？

事務： （慢性化している渋滞という課題に対して、これまでの取り組みと現状を説明する。）観光のみならず都市空間形成に関するところでもあるので、市役所の中でも連携しながら調整していきたい。

石坂委員： 今の件についての意見。国際通り連合会理事をしているが、その観点から提案した

い。県庁前のバス停留に関しては、添乗員が、お客さんが全員集まっているかを把握できていない。全員揃うまでバスを呼べないが、観光客の中にはじっとしてくれない人もいるので、バスが到着したときにいなくなっていて、出発できないまま次のバスがきたり……という状態になっている。解決策として、案内をする人を配置しなくてはということで、バス会社がやるのか通り会がやるのかということで揉めている。停留所を作るとなると、維持するために有料にしないといけず、コスト削減で利用しないバス会社もあるかも知れないので、結局路駐は減らない。我々としては、新しいバスターミナルに、路線バスのみでなく観光バスも止められないかと提案している。たとえば、バスターミナルまで国際通りにしてもいいのでは？ サイオンの方も後から追加された部分なので。

それから、細かい部分にはなるが、国際通りは荷物を預けるところがない。大都市圏では、荷物を預けたい観光客と荷物を預かってよい店舗とのマッチングサービスをはじめている。沖縄でも、今後始める予定である。トイレ不足の問題もある。これは観光客のみならず地元の方も困っているところかと思うが、衛生的にも問題なので解決が必要。

また、一番課題となっているのが、観光客受入が順調に伸びているからこそ考えないといけないのだが、安全や災害、防犯、テロ対策。これが全くと言っていいほど進んでない。たとえば地震が起きて津波警報が出たときに、国際通りを歩いてる人たちにそれを伝えるべきがない。ビザ緩和によって観光客が増え、治安が悪くなる可能性もある。しっかりやらなくては。

部会長： ありがとうございます。いくつか話が出たが、事務局、何かあるか？

事務： 特にトイレについては、衛生環境の問題からも緊急に対応しなければいけないと感じている。ただ、土地がないという物理的問題があって、検討しているところである。

部会長： トイレについては、協力店舗に若干の補助金を出していたかと思うが、継続されているのでは？

事務： はい、それについても、もっと利便性を高めるということを含めて。協力店舗がひと目見てわかる、入れるような工夫が必要。数を増やすだけでなく、それも含めて検討していきたい。

事務： 先ほどの、災害時の外国人への対応については都市計画の分野でも同じような議論が出た。多言語掲示や、ユニバーサルデザイン。そこについては、全体会で調整し、横串を通していきたい。

部会長： ありがとうございます。最後に委員からご発言のあった安心安全の件、那覇市だけでな

く全県的な問題かと思うが、観光客が増えることで様々な問題も増える。観光計画の中でも、危機管理計画は市としてしっかり作る必要がある。危機管理については、3.11以降かなり力を入れていて、自然災害を重点にしているが、特に那覇市においてはそれだけではなくもう少し幅広い対応が求められるかと思う。そこは意識した方が良い。

石坂委員： 具体的に言うと、那覇市のHPに災害の情報がでるが、実際に災害の時はHPを見ないと思う。観光客においても同様。以前も話に出たが、やはりデジタルサイネージなど、町中でどう伝えるかという工夫が必要。もう少し議論してほしい。

部会長： この辺りは別の、都市基盤部会でも議論がされているかと思うが、ここでも言及があったということで連携を図れるようにしたいと思う。

久高委員： 今の、観光客の受け入れ態勢、安心安全についても含めて、インバウンド受入を増やすというのも重要だが、同時に住民のストレスが増えるという問題も出てくる。軽減策を意識して対応するという一言、今ある項目の中に入れてほしい。

部会長： 安心安全の取り組みということで項目をひとつ入れて、細かいところはそれぞれの分野で出てくるということになるかと思う。この辺りは大事なこと。

取組1に「市民・県民・観光客バランスの取れた……」と書いているが、現状と課題で地元客離れが指摘されている。中小企業振興審議会の中でも、どうやって県民に中心商店街に行ってもらおうかという施策を強化する必要があるという話が出た。市民・県民から愛されない国際通りというのは……。何か仕掛けが必要。

他、ご意見いかがでしょうか。

宮地委員： 市民が中心市街地に行かないという話で、周りに聞くと、やはり観光客が行くところだよねという言葉が帰ってくる。公設市場の値段もどんどん上がって、普段の生活の中で行くような場所ではちょっとなくなっているという意見。具体的な対策をどうするかというと、個店任せになるが、書いてある通り個店の魅力作りになるかと思う。また、県外観光客からも、結局同じものしか売っていないということで、その店のリピーターにはならない。

部会長： 個別に見ていくと一生懸命やっているお店やユニークなお店があるが、全体的に国際通りは観光客向けだとイメージが固定化しているところがある。まずそれを崩すための情報発信の強化もまだまだ十分ではない。このあたりはまちなか振興課のほうで調査していなかったか？

事務： 個店の再生事業ということで調査もしているし、那覇のまちゼミというのも実施している。個店の、この店にしかない魅力をアピールすることでファンになってもらい、また店に訪

れてもらうということを意識した事業を一緒にやっ払いこうという取組を行っている。

石坂委員： 通行量もそうだが、数は増えている。ただ、売り上げについては4割の店舗は上がっているが6割は落ちている。落ちている方が多い。店舗の内訳を見ると、ここ三年でオープンしたのが1/3、逆に昭和57年以前からやっているところが1/3、それ以外が1/3になっている。老舗と新しい店舗の入れ替えが多く行われているが、インバウンドブームでドラッグストア等に置き換わっている。今度、北海道物産展がオープンする。インバウンドも多く購入するかと思うが、全国のアンテナショップが国際通りに集まったら地元の客も戻ってくるのかというのが、この北海道物産展で検証できると思う。新たな切り口となる可能性がある。

仲村委員： 観光客は、沖縄に来ているので。

石坂委員： それ以前に、日本に来ているというところもある。九州ラーメンが非常に売れたりしている。

根路銘委員： 物産展は、デパートでもやっているが、かなり地元の人がある。

宮地委員： 私も物産展はよく行くが、やはり地元の人が多いと思う。他県のものを買いたいという需要があると思う。

石坂委員： それが当たると、全国のアンテナショップが国際通りに出展してくるかもしれない。

部会長： この辺りは、国内・国外観光客の比率が変わる中で、マーケットとしてのニーズの変化というところがある。問題は、そこで利益を上げている人たちがどういう人たちなのかということ。地元にお金落ちてこない現実がある。ここ数年はこの流れがもっと続くかと思う。地元企業や個々の商店は、そういった流れにどう対応して販売力を高めていくのかという、逆に厳しい競争状態にある。マーケット自体は増えているので、個店の魅力も含めてどう取り組むのか。それを行政がどこまで支援できるかというところに来ているかと思う。

石坂委員： オーナーたちは、必死にやっている。ただそれが外国人観光客に受けるか、地元を受けるか、ということがある。

西澤委員： 那覇市としてはやはり市内、県内の企業に頑張ってほしいという思いがあると思うが、先の北海道展の話もあるように、県外企業が来ると活気付くということもある。外国資本も同様。市街地を活性化するという意味では、外から持ってくるというのも悪いことではないのでは。那覇の商店街らしさを残したまうまく外の資本を持ってくるということができれば。

石坂委員： もうひとつの問題としては、家賃がものすごく高騰している。なので、借りられる会社が限られてくると思うし、これがますます進むと今のお土産や国際通りにあるような商品で

採算が取れるのか。このままいくと高額商品を売らないと店舗を出せないということになる。

そうすると、国際通りはもしかたら賑わうかもしれないが、県内事業者は出店ができなくなるということは考えられる。

部会長： ありがとうございます。少し先に進めたいと思う。指標①の、目標値 103, 100 人というのは？

事務： 過去の伸び率を参考にしている。年度によって大きくバラつきがあり、ここ数年はかなり伸びが大きくなっているが、なだらかな年の数値も参考にした数値になっている。

部会長： 小さいのではという感じがする。委員の方々、この辺りどうですか。

仲村委員： 小さいかと思う。

石坂委員： クルーズ頼みのところはある。今後クルーズ船がどれだけ増えるか。バース計画がどうあるかということもあるが。

部会長： 県民にも戻ってもらうというメッセージを出す以上は、クルーズ船のお客さんとは別として、通年でももう少し目標が高くないと、これでは弱いのでは。

事務： 検討させていただく。

西里委員： 88 ページの取り組み 4 は、商店街振興組合の組織力かと思うが、組合加入率の把握はされているか？

石坂委員： 理事をしているので、お答えする。国際通りの全店舗が 470 店舗程度だが、そのうち 270 店舗くらいが加入している。

西里委員： 加入率が年々低下していると聞くと、せっかく市が支援するのであれば加入率を上げることによって組織力が強化され受け皿ができるかと思う。ただ、振興組合の組織自体が旧態然としていて入りにくい若い人たちがいるという意見も聞く。そこら辺の実態も調べて、若い人たちや新規参加者が入りやすいような状況をつくっていただきたい。

部会長： この辺りは、中小企業振興審議会でももう少し組合への加入を増やして行くべきだという議論がずっと出ていたかと思う。個別の取り組みの中でもしっかりやっていただけたらと思う。

石坂委員： 那覇市にも応援してもらいたいということはある。これまで、ほとんど加入するメリットがなかった。やはり、国際通りのまちづくりということで同じ方向を向くためにも加入率はあげたい、そのためにメリットをとということで施策も打っていて、加入者同士の協力などは増えている。色分けしたマップ作り、ホームページをリニューアルして更新を増やし、多言語化するなど。

今後のことと言うと、メリットもそうだが、今行っている一万人エイサーなども、那覇市の援助があってもずっと赤字である。我々だけでイベントをするのはなかなか難しいので、那覇市とも連携しながら、国際通りという場所をイベンターに提供してイベントを行うというような、持ち出しが少なく収入も入るような形のイベントを展開できたらと考えている。県外から人を呼べるようなイベントを盛り上げていくことができないか、検討してほしい。

西里委員： 組織力を強化するということは、商店街振興組合に入ること、今はおそらく白色申告の事業者が多いが、青色申告に移行するよう指導助言することで、所得の把握ができるようになる。税金も含めて適正なまちづくりというのを目指すには、その方がいいと思う。会社をよくするためにもその方がいいだろうし、市としても、税収をどうこうというとまた反発があるかも知れないが、基本的にはそこがないと立ち行かない。稼ぐ力ということも含めて、大事かと思う。

部会長： そういった意味では、各店舗なりに対して、中小企業診断協会あたりで指導したりとかもされてはいる？

西里委員： それもあるし、中央会が決算の勉強会をしたり、法人会に入れば、経理の指導もある。そういったところを含めて、総合的に見ていったほうがいいかなと。

根路銘委員： さきほどの石坂委員の意見、非常に面白いと思った。実際そのように、毎週イベントを組んだりしている地域はあるのか？

石坂委員： そこまではないのかも知れない。ただ、新宿エイサーなどは、毎年 100 万人を超える集客がある。予算を取っていて、沖縄の出場者には出演料がでる。一万人エイサーには出ないで新宿エイサーに出るチームもある。本来はこちらが本場なので、ちょっとおかしいかなと思う。

部会長： 商店街の成功事例、失敗事例というのはこれまでも様々なところで紹介されていると思うが、天神商店街は、MICE を非常に応援していて商店街をすべてユニークベニューという形で参加者に開放している。向こうでも当然様々な規制があるが、関係機関と調整の上、地元側でそういう意識がきちっと高まっていけばできないことではない。国際通りの場合は、交通や商店街の意向など様々な問題もあるが、やり方はいろいろある。情報収集をしながら、施策を進めていただきたい。

ここでちょっと次の施策 40 番に進みたい。中心市街地については、ハード・ソフト両方混じった感じになっているが、施策 40 番では中心市街地の再整備ということである。特に取組 1 の商業の活性化について、皆様の方からご意見があれば伺いたい。公設市場の再整備について、

今の状態を情報共有しては？

事務： （再整備について、現状と今後の予定を説明する。問題がすべて解決したというわけではないが、すべての事業者と相談し、早く進めたいということで合意は取れている。防災上の観点からも、一刻も早く再整備したいというのがこちらの思いである。）

仲村委員： 公設市場は、今と同じ場所で、サイズ感もあのまま再整備するのか？ アーケードはそのまま？

事務： 場所は同じで、公設市場周辺のアーケードは一度撤去する。アーケードについては非常に問題が複雑で、今あるアーケードは既存不適格になっている。もし次にアーケードを作るとなると、下の建物をすべて防火構造とし、一定の基準を満たさないと建てられない。建て替え後すぐには設置できず、今のところは目途が立っていない状況。今の状況をできるだけ再現できるよう、工夫したい。

仲村委員： 公設市場の左側の建物は、民間の建物？ あれこそすごく老朽化しているかと思うが。

事務： はい、水上店舗ですね。老朽化している。

部会長： 柱と方針 1-2 で触れている。

事務： 排水路の上に建物が立っている状態。民間の方々がお金を出しあって建てていったというのが過去の経緯になっている。行政が勝手に建替えるというわけにはいかず、所有者の方がどうしたいかというのが一番重要だが、そこがうまくいかない部分で、非常に大きな課題として捉えてはいる。だからと言って放置するわけにもいかないが、沖縄の場合は、地主さん・大家さん・店子さんがそれぞれ別の方ということが多く、所有権を調べるところから始めないといけない。調査等も含め、役所全体で考えないといけない問題である。

仲村委員： 小さい区画での地権者の話はよく分かるが、民間だけで解決するというのは非常に厳しい。行政としてこういうグランドゾーニングがあって、こういうまちを作りたいという大きな考えのもと、ある程度のコストを投資しないといけないと思う。アーケードがなくなると大変だと思う。私は、理想形としては、みずほ銀行のところからサイオンのところまで全部アーケードになったほうがいいと思っている。一度取り壊すと現防災基準を満たさないと作れないということで、大変かと思うが。

部会長： そういうことを含めて、市としては、公設市場の立て替えだけではなく、あのエリア全体の在り方を検討していくという。時間がかかる話でしょうが、安全安心について考えると、先日の築地の火災のようなことは容易に想像できる。そういうことを想定した安全対策という

のは、取り組みはされているのか？ 商店街の皆さんと市とで緊急避難の訓練とか？

事務： 平和通りなど近隣の商店街では自主防衛組織を作っていて、避難訓練の実施をしている。

案内所「ゆっくる」に、商店街全体に一斉放送ができるような仕組みもある。商店街の方々と、たとえば避難場所にどう案内するのかなど一緒に考えながらやっている。

部会長： 火災対策、水害対策、いつ何時起こるか分からないものなので、情報共有も含めて常にやってほしい。連携体制が薄まっている中、有事にそういったことがうまく機能するかというのはなかなか難しいところ。

事務： 役所としても非常に重要な課題と捉えていて、全庁的に連携して取り組んでいる。

部会長： 指標についてはいかがか？ このひとつだけで良いのかというような気がするが。

石坂委員： 確認なのだが、39 番か 40 番のどちらかに安心安全という言葉を入れるということで良いか？

部会長： はい。これは入れた方がいいと思う。39、40 のどちらにも関わっていることだが。

事務： 施策 3 に、安心安全についてはあるが。

部会長： 全体の安心安全についてはそこだが、それも含めて考えた方が。

石坂委員： 観光客も安心安全ということも含めて。

事務： 再掲するか、単独で載せるのかというのも、調整しながら検討する。

仲村委員： 新文化芸術発信拠点、市民会館について。駐車場は作られる予定なのか？

事務： 出演者の方の駐車場は確保される予定だが、利用者用の駐車場というのは予定はない。スペース的に難しいということと、那覇市の施策として、基本的に中心市街地にはできる限り公共交通を利用して訪れてほしいということがあるため。

部会長： 新文化芸術発信拠点については、市民の利用もだが観光客の利用も考える必要がある。観光客の視点からすると、夜間のイベント、エンターテインメントが必要だという議論があるが、今回のこの施設がどんなものになるのかによってもまた変わってくるかと思う。

事務： はい。それも含めて、どのように運営できるかということを今後の管理運営計画で検討していきたい。

仲村委員： いろいろなニーズがある。リウボウホールがなくなって、小規模なコンサートなどの開催場所の受け皿にもなるかも知れない。

部会長： 他にご意見あるか？

西澤委員： 指標は市民意識調査ということだが、新文化芸術発信拠点ができたあとの来場者数というのは、指標としてカウントされる？

事務： できたあとの来場者数は、もちろんカウントされる。指標としては、施策 29 番で設定されている。

部会長： どちらかというところの施策 40 番は、先ほどの商業の活性化とか、牧志公設市場等の再整備を中心という理解でよろしいか？ 関連していくつか、市民会館の話などもあるが。

事務： そうですね、上の二つの取組が、主に施策として行っていくところになる。

部会長： 商店街の問題は、中小企業振興会で議論していても、なかなか難しい。先ほどの組合加入率の問題、規制の問題、オーナー・地主さんが違う問題、県外の方や、これから外国の方々も入ってくる。一本芯の通った取組として行うには、コミュニケーションをしっかりとっていかないと難しい時代に入ったかと思う。中心市街地の問題というのは大きな課題。重要な取組になる。

情報発信の強化というのは、しっかりやっていかないといけない。県民に向けて、観光客のまちだからということで終わってしまわないように。中小企業審議会の中でも、もう少し高校生・大学生が中心となったアイデアコンテストをするなど、彼ら彼女らが関わるような仕組み作りをもっとした方がいいのではという話が出た。そういう施策も期待する。

西里委員： 施策名称が「中心市街地の再整備など……」となっているが、農連市場は今再開発・整備をしているが、その後の施策というのは継続してあるのか？ ハード面は今の施策で十分かと思うが、その活性化に繋がるような施策。

事務： 現段階では、農連市場を含めた形での記述はない。ただ、これから実際農連市場が運用されていくので、当然関わりはあるので、何らかの形で検討していかないといけないと認識している。

西里委員： それに繋がるような項目を入れてもらっていた方がいいかと思う。

部会長： ありがとうございます。39、40 については、いろいろとご意見でしたので、もう一度事務局で整理をしていただくとして、前回議論した部分について、もし補足等があれば、残りの時間を充てたいと思う。改めて、施策 30 から、何か発言あるか？

西里委員： 施策 31 で、施策概要に「世界水準の観光リゾート地となることを目標に掲げ」とある。これはこれで私はいいと思うが、現実として現状と課題には「市内宿泊数は 1.14 泊と減少しており……（中略）延長を図る努力が必要です」とあるが、この取組の柱と方針だけで、果たして本当に世界水準の観光地になりうるのか。また、1.14 泊をどこまで伸ばすのか。那覇市のみ、沖縄県全体を世界水準の観光地とするのかどうか、いわゆる量と質というような部分で見たときに、目標として指標が必要になるのではと思うが、それはいかがか。

事務： 平成 36 年が最終年度となる観光基本計画で、2.6 泊を目標としているということがあり、それに比べると現状の 1.14 泊は少ないという表現になっている。その中で、委員ご指摘の通り世界水準というのがどこまでできるのかというのは確かにある。ここは宿泊もそうだが、観光収入、一人あたりの消費額なども増やしていこうという目標があるので、総合的に水準をあげていこうという考えである。

西里委員： 那覇市の目指す世界水準というものを、定義とまではいかないが、掲げてはどうか？

部会長： この辺りは那覇市の観光計画の中に、キャッチフレーズとしても観光交流都市というのがあり、那覇市の観光の方向性についてはかなり議論したし、指標としても掲げているかと思う。目指す姿について、少し説明をお願いしたい。

事務：（観光基本計画の指標、目指す姿について説明する。）

西里委員： これはたとえば総計の指標として、被るかも知れないけども整合性を図るということはどうできない？ そこはもう観光振興基本企画を見てくださいという形になるのか。

事務： 70 ページになるが、那覇市の観光統計ということで指標としているが、先ほども申したように観光基本計画の最終年度は平成 36 年度となるので、伸び率を反映させた形で目標値を設定している。

久高委員： 今のに関連して、市内消費額、市内宿泊客数、観光収入額という指標があるが、これは一人あたり消費額×泊数×観光客数＝観光収入額ですね。（事務局の肯定を確認して）内訳には宿泊日数出てきているはずなので、出しておけばもっと分かり安くなるかと思う。

事務： 表記の仕方ということ？

部会長： 指標として追加をするということか？

久高委員： そうですね。

事務：（指標の計算方法について説明する。）

久高委員： それが見えると分かりやすいと思う。

西里委員： 説明をしないと分からないというような指標ではなくて、一般市民が見て「なるほど」という筋書きができればなお良いかなと思う。

事務： 分かりました。ここは、少し検討させてください。

部会長： 総合計画という大きいくくりでやるので、個別計画はかなり細かく表記しているのでギャップがあり、これだけ見ていると物足りないようにどうしても見えてしまうのだが、市全体として様々な施策が入ってくるので、細かすぎるのもまた難しいというところ。そのバランスは少し考えないといけないかなと思う。

久高委員： 72 ページにスポーツコンベンションについてあるが、奥武山でサッカースタジアムの整備は進めている？

事務： 現在は県がやっている。サッカーも、それ以外の、オリンピックの事前合宿も含め、スポーツ MICE 的な部分にはなるかと思うが、スポーツをもっと利用して観光誘客にも繋げていこうということ。

部会長： サッカースタジアムについては、なかなか難しい問題が多くある。J1 クラスだとして、あれだけの収容数、収益や周辺施設含めて、収益を重視するといろいろ盛り込まないといけないが、そうすると「公園」ではなくなってしまう。一方で、あれだけのコストをかけて収益はどうなのかということもある。県のやっている MICE とも連動するが、インフラという捉え方と同時に投資としてどうかということがある。委員会として結論は出した上で、今後も検討していくということになるが、ここでは、那覇市としてスポーツコンベンション拠点にしっかり取り組んでいくという理解でよいのか？

宮地委員： スポーツに入れたらいいのか、別立てで入れたらいいのか分からないが。沖縄の気候は冬のリハビリに適していると思う。泊数も伸びるし、海外では日本に比べてあまりリハビリの概念がないようなので、海外からもリハビリに来ていただけるような人材・施設の仕組みを作ったらどうか。県全体ではやっているかと思うが、エステ・マッサージなどの癒しでリピーターになってもらうというようなことをどこかに入れてはどうか。

部会長： 観光基本計画の中で、滞在型保養とかの施策は入っていますよね？

事務： そうですね。医療ツーリズム的なことも必要になってくるかと思う。スポーツの観点でのリハビリ的な施設があると良いが、残念ながら那覇市内にはない。民間を活用することも含め、将来的には可能性を感じてはいるが、現状ではできていない。検討させていただきたい。

部会長： 今回までで個別の議論は終わらせていただき、次回はまとめを行う。ほかの施策についても、どうしても指摘があれば。

仲村委員： 72 ページ、取組 2 の魅力ある食文化の発掘について。市魚のマグロについてがあるが、泡盛を琉球料理とセットで世界に向けて無形文化遺産にしようという動きがある。まさに食文化ということなので、県が発展すれば那覇市も発展するので、琉球泡盛についてもどこかで議論はないか？ 文化遺産ということになると、非常に発信力になる。

事務： 前回、施策 33 の所で泡盛についてもご意見があった。議事録を確認いただきたい。

部会長： ご指摘の通り泡盛は話が中心でもあるので、今言ったような議論も含めて、柱と方針の中に泡盛という言葉があってもいいのではないのか。

時間があと5分と迫っているので、他に意見があればお願いしたい。

宮地委員： 確認なのだが、県民・市民を巻き込むものとして、県でウェルカムンチュという取組をやっている。一緒になって那覇市もやってほしい。もうひとつが、企業を誘致するのみでなく内発的な発展をとということを入れてほしい。

事務： 那覇市としても、おもてなしの部分が不十分だという認識はある。県とも情報共有して、一緒にやっていけるところは連携していきたい。内発的な発展については、前回もご意見いただき、議事メモにもまとめてある。検討する。

西澤委員： 80ページ、那覇港の物流交流機能のところについて。海上貨物は航空貨物と違い、かなり航路が限られていて、空路を使わざるを得ないということがある。ポートセールスについては主に那覇港管理組合がやって、市はやらないのか？ ハード面もちろんだがソフト面の利便性の向上というのも必要かと思う。それについての取り組みというのはどうなっているのか。

事務： 港湾組合には那覇市の職員も出向している。確かに、港湾組合が主体とはなるが、連携して取り組んでいきたい。

部会長： よろしいか。

（他に意見が出ないことを確認し、）振返り含めて、今回で全施策を議論した。今回のコメントを踏まえて事務局で整理をしていただいて、次回、答申案の整理をするということになる。事務局の方から、今後の進め方について説明をお願いします。

事務： はい。皆様、ご議論ありがとうございました。

（事務連絡、次回の説明をする。）

部会長： ありがとうございました。それでは、これで第2回専門部会を終了する。お疲れさまでございました。

一同： ありがとうございました。お疲れ様でした。

以上